

# 真の放射線生体影響解明に向けて 進む放射光マイクロビーム評価技術

開催日時：2018年3月18日（日） 13:00 ～ 17:00

ビーム径をマイクロオーダーまで絞り、特定の場所に放射線を打ち込む放射線マイクロビーム技術は近年急速に発展しています。この技術を放射線生物影響の分野に応用して1つの細胞だけに照射してその挙動を見ることで放射線に対する生物の初期応答過程を解明する研究が現在活発に行われています。本シンポジウムでは放射線マイクロビームの最新照射技術、放射光マイクロビームを利用した最先端の生物影響研究について紹介していただき、広く議論をすることで放射線分野の更なる活性化を目指しています。

## 招待講演者

宇佐美 徳子（高エネルギー加速器研究機構）

「マイクロビーム照射・測定技術」

渡辺 立子（量子科学技術研究開発機構 東海）

「モンテカルロシミュレーションによる低線量影響とDNA損傷収率の概論」

泉 雄大（広島大 放射光科学研究センター）

「DNA付随タンパク質の構造変化」

神長 輝一（量子科学技術研究開発機構 東海）

「マイクロビーム照射細胞のライブセルイメージングによる細胞周期遅延」

鈴木 雅雄（量子科学技術研究開発機構 放医研）

「放射光マイクロビームを使った生物照射効果研究」

舟山 知夫（量子科学技術研究開発機構 高崎）

「イオンマイクロビームによる生物照射装置の開発」

## 世話人：

海野泰裕（産総研）、椎名卓也（日本アイソトープ協会）

人見啓太郎（東北大学）、柳田健之（奈良先端科学技術大学院大学）